

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック 保幼小中連携	自分力、つながり力を持つ て自立する子どもたち	<ul style="list-style-type: none"> 合同授業研の実施(養中) 養精中ブロック保幼小中連携カリキュラムを活用し、日々の教育活動を行う 授業研など他校種の授業参観 学校事務の共同実施 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の振り返りと改善 合同授業研の実施(茨木小学校1校) 小・小で統一した取組 他校種の様子を交流 保幼小中、異学年交流 学校事務の共同実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2年目までの検証 学びのシンポジウムの実施(中条小学校1校) 校種をこえて取組などで子どもと大人がつながる 校種間の段差を低くする そのための交流をもつ 学校事務の共同実施
確かな学力の育成	互いに学び合い、主体的に学習する 子どもたち	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の振り返りをふまえて目標を目指す。 小学校6年間中学校3年間を意識した「分かりやすく楽しめる授業」の実践を行う。 コミュニケーション能力を高める研究・実践をさらに進める。 学校で統一した授業スタイルを実践する。 情報機器を利用し、効果的な学習支援に努める。 読書活動を通して情操を養い、進んで学習する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の振り返りをふまえて目標を目指す。 小学校6年間中学校3年間を意識した「分かりやすく楽しめる授業」の実践を行う。 中条小学校・授業スタンダードづくり 言葉の力の活用(全学年)・コミュニケーション能力を高める研究・実践をさらに進める。 学校で統一した授業スタイルを実践する。 情報機器を利用し、効果的な学習支援に努める。 読書活動を通して情操を養い、進んで学習する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の振り返りをふまえて目標を目指す。 小学校6年間中学校3年間を意識した「分かりやすく楽しめる授業」の実践を行う。 中条小学校・授業スタンダードづくり 言葉の力の活用(全学年)・コミュニケーション能力を高める研究・実践をさらに進める。 学校で統一した授業スタイルを実践する。 情報機器を利用し、効果的な学習支援に努める。 読書活動を通して情操を養い、進んで学習する態度を養う。
豊かな人間性を育む	一人ひとりが輝き、共に学び合う 子どもをめざして	<ul style="list-style-type: none"> 推進計画の作成 4委員会を中心に推進 校内研究(授業改善、授業に人権、集団・仲間作りの視点を入れる、ペア学習やグループ学習等) 研修会の実施 各学年の人権カリキュラム、取組みの活用、推進 各学年の総合カリキュラムの活用、推進 全教職員の人権意識の共通理解 道徳授業の教科化に向けた、学校体制の在り方の追求 安心して学べる環境づくり(人間関係、系統性のある人権学習の推進、授業規律等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○初年度の取組みの検証と、計画の評価と見直し 推進計画の作成 4委員会を中心に推進 校内研究(授業改善、授業に人権、集団・仲間作りの視点を入れる、ペア学習やグループ学習等) 各学年の人権カリキュラム、取組みの活用、推進 各学年の総合カリキュラムの活用、推進 全教職員の人権意識の共通理解 安心して学べる環境づくり(人間関係、系統性のある人権学習の推進、授業規律等) 特別の教科道徳の授業の充実 校内平和学習の系統立てた学習基盤の作成 児童実態交流 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年間の取組みの検証と、計画の評価と見直し 推進計画の作成 4委員会を中心に推進 校内研究(授業改善、授業に人権、集団・仲間作りの視点を入れる、ペア学習やグループ学習等) 各学年の人権カリキュラム、取組みの活用、推進 各学年の総合カリキュラムの活用、推進 全教職員の人権意識の共通理解 安心して学べる環境づくり(人間関係、系統性のある人権学習の推進、授業規律等) 特別の教科道徳の授業の充実 校内平和学習の系統立てた学習基盤の作成 児童実態交流
健康・体力の増進	意欲的に活動し、お互いに協力し て運動を楽しむ子どもを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 校内実技研による授業力の向上 跳び箱・マットカリキュラムの改訂 縄とび月間などの全校的な活動の実施 体育教具の充実 全児童のスポーツテストの実施(29年度のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> 校内実技研による授業力の向上 跳び箱・マットカリキュラムの改訂 縄とび月間などの全校的な活動の実施 体育教具の充実 4, 5, 6年のスポーツテストの実施 体育委員会による休み時間の運動遊びの場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 校内実技研による授業力の向上 跳び箱・マットカリキュラムの改訂 縄とび月間などの全校的な活動の実施 体育教具の充実 4, 5, 6年のスポーツテストの実施
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査



国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
大変良好な結果であった
- ③ 読むこと
良好な結果であった
- ④ 言語事項
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
大変良好な結果であった
- ② 短答式
大変良好な結果であった
- ③ 記述式
出題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
大変良好な結果であった
- ② 書くこと
大変良好な結果であった
- ③ 読むこと
大変良好な結果であった
- ④ 言語事項
出題なし

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
出題なし
- ③ 記述式
大変良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

分析

- ・全ての領域において良好な結果であった。
- ・「話すこと・聞くこと」に関しては、全国の平均に比べて上回っているが、本校だけで見ると、図書館への行き方との説明として適切なものを選択するという設問への解答に少し課題がみられた。

取組み

- ・語彙力を高めるため、漢字学習の中で文章や熟語を書く学習をするようにしている。
- ・朝の読書活動や読書週間の取組み、図書館支援員の配置により読み聞かせや図書室の整理、休み時間に図書室を開放するなど読書を楽しめる環境を作っている。
- ・各学年、音読の宿題やクラスでのスピーチの取組み、音楽劇などの発表会を行い、話す力を育む取組みをしている。
- ・各学年、日記、作文の取組みを行い、書く力を育む取組みをしている。
- ・国語・漢字の練習は毎日宿題に出し、間違い直し等こまめに指導を行っている
- ・校内で研究して意見交流を行い、研究授業を行っている。

算数

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
大変良好な結果であった
- ② 量と測定
良好な結果であった
- ③ 図形
大変良好な結果であった
- ④ 数量関係
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
大変良好な結果であった
- ② 短答式
大変良好な結果であった
- ③ 記述式
出題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
大変良好な結果であった
- ② 量と測定
大変良好な結果であった
- ③ 図形
大変良好な結果であった
- ④ 数量関係
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
大変良好な結果であった
- ③ 記述式
大変良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

分析

- ・ほとんどの領域において大変良好な結果であった。
- ・本校でみると、量や測定領域で、単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を正しく捉えるという点での課題があった。

取組み

- ・課題のある量と測定領域では授業で実際に長さ、かさ、重さをはかり、単位など比べながら1つ1つ確実に定着させる分かりやすい授業を行っている。
- ・個別指導や躓きやすい単元ではプリントやワークシートを活用して習熟できるようにしている。
- ・中学年のつまずきの多い時期に、習熟度の取組みをし、丁寧な指導を行っている。
- ・日々の算数の実践を学年で共有し、教材研究を深めている。
- ・学校全体で算数科の問題解決学習に取組み、研究を深めている。
- ・算数の宿題をほぼ毎日出し、間違い直し等の指導を行っている。
- ・算数科においては、重点的に学習サポーターに支援してもらい、子どもたちのつまずきを減らせるよう取り組んでいる。
- ・ICT 機器の活用をしている。

理科

(領域ごと)

- ① 物質
良好な結果であった
- ② エネルギー
大変良好な結果であった
- ③ 生命
概ね良好な結果であった
- ④ 地球
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
概ね大変良好な結果であった
- ③ 記述式
大変良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

分析

- ・短答式の問題形式では全国平均を下回っているが、他の領域において全国と比べて良好な結果であった。
- ・理科に関して、他教科に比べて苦手意識を持っている児童もいる。

取組み

- ・高学年は理科専科を配置しており、教材研究や授業がより丁寧になされている。
- ・単元を超えて、事象を関連付けて考える学習を今後行う必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

例年良好な結果, 大変良好な結果で推移しており, 全国平均より高い位置を維持している。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

昨年と比較すると学力高位層は増えており、全国平均と比較しても高い。低位層はやや増えているが、全国平均と比較すると少ない。

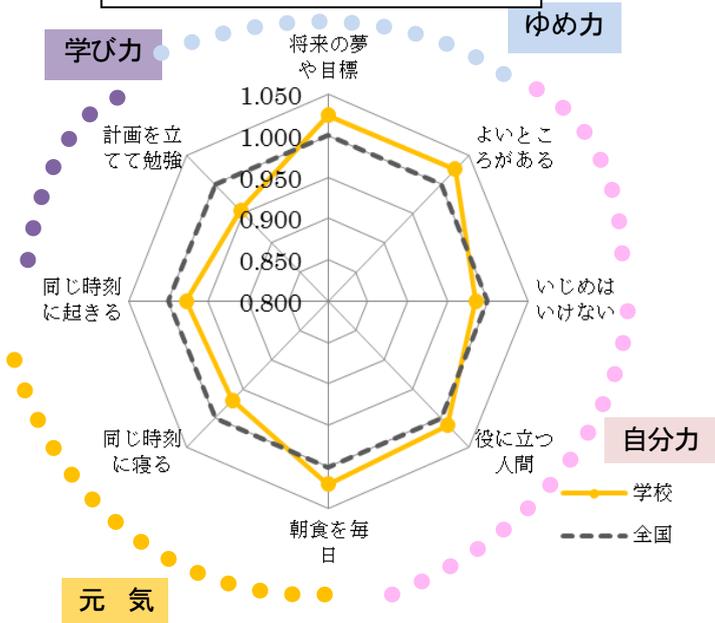
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

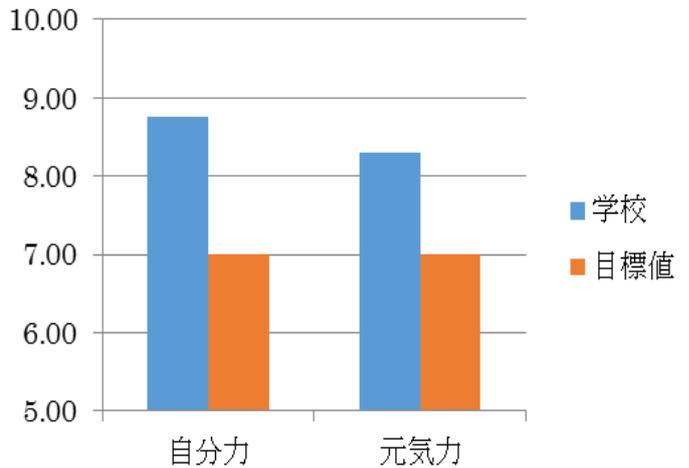
- ・ どの児童にもよく分かり、主体的に学習する授業のあり方を研究している。
- ・ コミュニケーション能力の育成・取組みの研究をしている。
- ・ 朝の読み聞かせや読書週間で本を楽しむ機会を持ったり、本の紹介を掲示したり、子どもに購入してほしい本のアンケートを取るなど、読書活動の推進をしている。
- ・ 図書館支援員、図書委員会が連携し、休み時間に図書室を開放し、子どもが本に親しむ機会を増やしている。
- ・ 毎日の学習や朝学習を行うことで、学習の習慣をつけている。
- ・ 国語科においては、校内で研究して意見交流を行い、研究授業に取り組んでいる。
- ・ 算数科における習熟度別指導の実施をしている。
- ・ 算数科においては全校で問題解決学習に取り組んでいる。
- ・ 支援チームと打ち合わせを密にして子どもへの支援の配置を工夫し、個別の学習支援をしている。
- ・ 情報研修も行い、デジタル教科書や書画カメラなど I C T 機器の活用をしている。
- ・ 今後、子どもが学習へ安心して取り組めるように、授業の流れや板書などを校内でそろえる取組みを考えていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

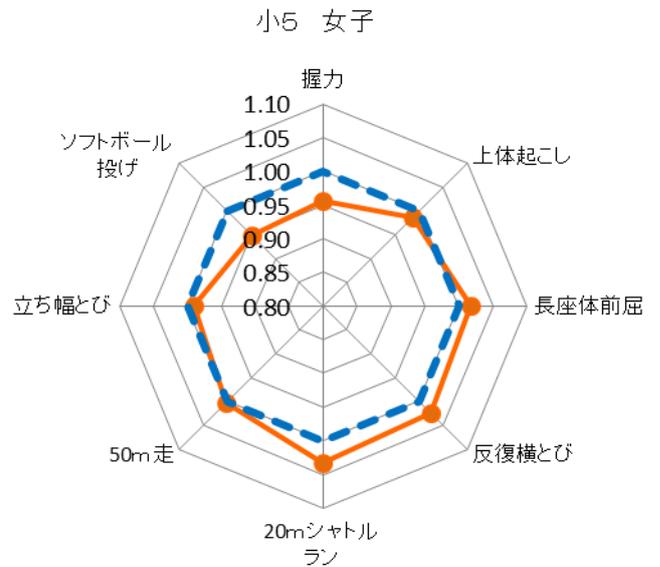
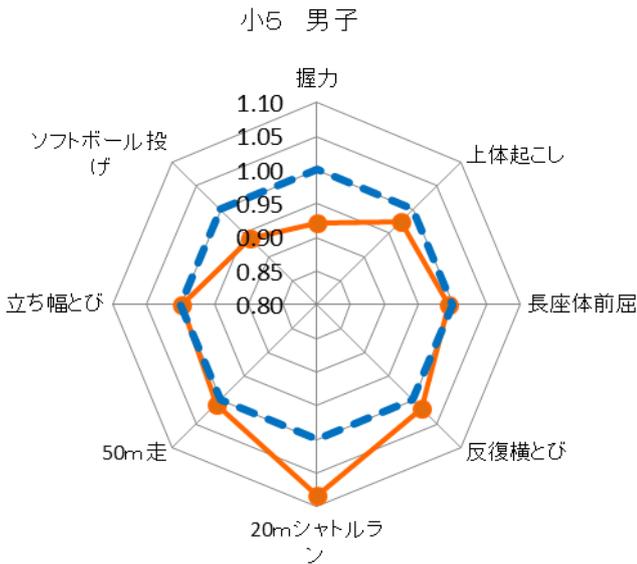
- ・自分には良いところがあり、将来への夢や目標を持ち、役に立つ人間になりたいと思っている児童が多い。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」とほとんどの児童が答えているが、否定的な答えを出している児童が増えており、全国平均と比べても多い。いじめを許さない、見逃さないという姿勢を育てていく必要がある。
- ・「毎日決まった時間に起きる、寝る」や「計画を立てて勉強する」のポイントがやや低い。これは習い事や塾通いなど学校外で過ごしている時間が長く、自分で生活時間を調整したり、計画を立てたりすることが難しいということがあるのではないかとと思われる。

取組み

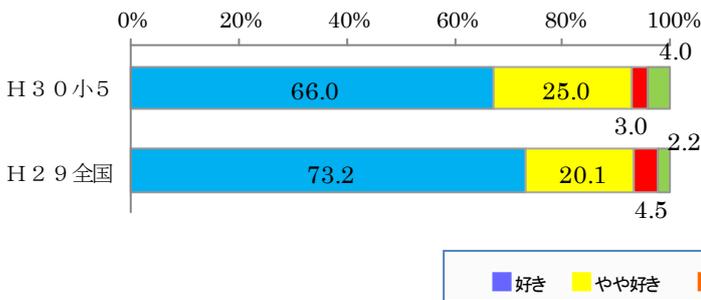
- ・普段からの集団作り、人権感覚の育成に取り組む。
- ・いじめが決して良くないことなどの道徳的判断力を、道徳の授業を通して育てる。
- ・人権を大切に、一人ひとりが輝き、共に学びあう子どもを目指している。
- ・スピーチやグループでの話し合い、聞き合う機会を設けている。
- ・日記や作文などで自分の思いを表現する機会を設けている。
- ・日々の学習活動に加え、体験学習・社会見学などを通して、学ぶ力・考える力・解決する力を身につけさせるよう努めている。
- ・学級文庫の交換やブックトーク、貸し出し本の予約制度や、おすすめの本を掲示するなど子どもたちが本を好きになるように取り組んでいる。
- ・生活指導上での問題については、朝会や学年、学級で児童への指導を続けていく。
- ・児童会が主体となり、中条フェスティバル、ハッピー学級の交流を通して、高学年は、自立活動、自主性、創造性を育てるように、低学年は、高学年の活動により学校へ行くのが楽しくなるように繋げている。
- ・運動会での応援団や各役割での取組みを通して、高学年は責任感やリーダーシップを持つことができ、低学年は、高学年からの働きかけにより協調性を持つことができる。
- ・生活指導部会、特別活動部会で連携をして、廊下を歩きましょうの取組みをするなど、きまりを守る意識を持たせるようにしている。
- ・日記、作文、学習の振り返りなど、自分の思いや考えを表現する機会を設けている。
- ・おとなしい児童が多いので、自分の考えを安心して話せるような雰囲気作りに努めている。
- ・身体測定の際に、養護教諭が保健指導を行っている。
- ・栄養教諭が、全学年に食育を行っている。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

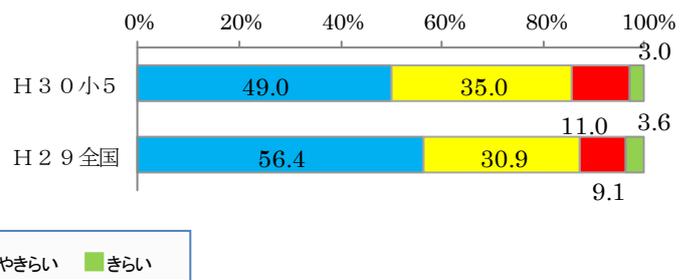
○●体力●○



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



分析

- ・男女ともに、握力とソフトボール投げに少し課題が見られる。
- ・男女とも全国平均と比べ、バランスよく結果を残すことができている。
- ・特に男子の20mシャトルランは全国平均と比べ、良い結果を残している。
- ・女子においても、20mシャトルランや反復横とび、長座体前屈では全国平均を上回っている。
- ・男女ともに「運動・スポーツは好きですか」との問いに「好き」と答えた児童は全国平均を下回っているが、「やや好き」と答えた児童を含めると全国平均程度の回答を得られている。
- ・一方で「運動・スポーツは好きですか」との問いに否定的な回答をしている児童も少なからずいるため、運動が楽しいと思えるような取組みを模索していく必要がある。

取組み

- ・体力の実態把握、分析からボール運動などの実技研修を通して体力向上に取り組むよう努めている。
- ・運動会や縄跳び月間などの体育的行事を行い、児童が楽しく運動に取り組める機会を設けている。
- ・児童が安全で楽しく運動できるように体育用具を管理し、充実させている。
- ・学校と地域が一緒になって、体を動かす機会を設けている。
- ・茨木っ子運動Ⅱを授業の中で取り入れ、体幹強化を図っている。
- ・指導内容の学年交流をすることにより、学習の系統性を明確にしている。
- ・校内の体育部より6年間を見通しての指導内容のカリキュラム等が示され、どの領域も運動できている。
- ・体育委員会の児童が中心となり、休み時間を活用した児童主体の運動遊びの場を設定している。クラスごとに考え、工夫した場を設定していることでたくさんの児童が楽しみながら運動に親しむことができている。